

# 労働運動の危機

▼ 運路をおやめる勿れ ▲

労働運動は、まさに方向をおやまらうとしてゐる。

解放を自ざす労働者の前進は、何者かの爲めに、またたげられやうとしてゐる。労働運動の真正なる目的は、何者かの爲めに、失はしめられやうとしてゐる。労働運動の熱火の如き精神は、何者かの爲めに、冷水を注がれやうとしてゐる。何者か導者こそ？ 自尊なく、意氣なく、誠意なく、そしてたい、野心と慢心に満てる措

導者のそれ !!

▼ 組合の利己心を捨てよ ▲

労働組合同盟會の分裂即ち脱退せる友愛會派と新に陣容を整へた組合同盟派との二つの傾向の對立は、我等労働者に何を示すか。各種の職業別乃至産業界組合が、一方には友愛會東京聯合會を形成し、一方には東京労働組合同盟會を形成つて、相互に反目背馳しなければならぬ理由は何處にあるか。

友愛會側がその原因を作つたのは事實である。然らば、その理由も友愛會側が當然語らなければならぬ。理由は果して何ぞ？ 會員の自發的意志に非ずして、指導者の統一の野心の發露即ちそれ !!

▼ 指導者の胡里胡塗を辨れ ▲

日本労働総同盟友愛會（八月限り友愛會の名稱を廢す）の東京聯合會大會は、七月五日を以て開かれる。こゝで我等の考へなければならぬのは、如何に完全なる自治的組織の形式を踏むと雖も、精神の無い労働運動は何の效果も得られぬといふことだ。如何に多數の會員を擁すると雖も、實質の無い労働運動は空協以外の道を逃めたいといふことだ。如何に團結の力を頼ると雖も、自主的自覺なくしては、眼に堪えないといふことだ。

大會の代議員が如何に合法的に選挙されたにせよ、指導者の草案に決議を興へ、その自論見を成獄させるだけでは何にもならぬ。しかも、代議員の實質は果して如何。指導者に續られた多數の會員は、自主的精神を有する眞實の戦士を大會に送りざらしめた。東京聯合會主席朝藤君は、かくして自己の足場を守らんとしてゐる。

▼ 諸君はいづれの味方か ▲

労働運動全體の上にも、友愛會の内面にも、二つの傾向が争つてゐる。一方は、労働者の自覺と意氣と力とによる自主的精神の運動、他は、野心と慢心と妥協とに動かされる指導者の連動、そして、前者は合意と協力とによつて不斷に躍進し、後者は支配と調協とによつて労働者の全自我的自覺の機曾を奪ふ。

諸君よ！ いづれが眞正の労働運動か！ ！として諸君は、そのいづれの道をたどらうとするか！ ！

※等は大會開議の友愛會員として、おやまれる友愛會の反骨と且つ殊を乞ひ、同時に我等労働者に對し、

日本労働総同盟友愛會東京聯合會所屬  
黒色労働會城南支部  
一九二二年七月

104-1 N. 3/0